

1. 実況上の着目点

- ① 日本付近は西高東低の冬型の気圧配置となっている。東日本と東北地方の山地や北海道では3時間に3～10cm前後の降雪を観測。一方、東日本と東北地方日本海側の平地では雨となっており、土砂災害の危険度が高くなっている所がある。
- ② 500hPa5280～5400mの-30℃以下の寒気を伴ったトラフが東～北日本を通過中。トラフに対応し、地上シアーラインが日本海～北日本にのびる。本州の日本海側では雷を多数検知。
- ③ 西高東低の気圧配置で気圧の傾きが大きくなっており、全国的に西寄りの強い風が吹き、波が高くしけとなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の西高東低の気圧配置は12月1日にかけて続く。北日本には、500hPa-36℃以下、850hPa-9℃以下の寒気が流入し、大雪となる所がある。北日本では1日にかけて、大雪や着雪、なだれに注意。西～東日本日本海側の山地では30日は、積雪や路面凍結による交通障害に注意。一方、東日本と東北地方日本海側の平地では雨となる。北陸地方と東北地方では1日にかけて、土砂災害に警戒。また、1項②のトラフと地上シアーラインが、30日朝までに東～北日本を通過し、日本の東に進む。上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となる。西日本では30日は、東～北日本では1日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 冬型の気圧配置で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くしけとなる所がある。南西諸島では30日は、西～北日本では1日にかけて、強風や高波に注意。北日本では風雪に注意。
- ③ 500hPa5640m 付近の-24℃以下の寒気を伴ったトラフが、1～2日に西～東日本を通過する。上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる。西～東日本では、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ④ 500hPa5400m 付近のトラフに対応する前線を伴った低気圧が、2日に発達しながら日本海を北東進。前線や低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となる。北日本では2日は、強風や高波、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等]** ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：北海道・東北40cm。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道・東北5、関東・伊豆諸島・東海・北陸・近畿・中国・九州南部・奄美4、九州北部・沖縄3m。
- ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西～北日本で注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。